

新技術・情報名	ハウスミカンの果実着色に有効な昼夜温
場 所 名	長 崎 県 果 樹 試 験 場
<p>1. 成果の内容</p> <p>1) 技術・情報の内容及び特徴</p> <p>ハウスミカンの果実着色を促進する昼夜温を明らかにした。</p> <p>(1) 1～2分着色期から収穫期まで、夜温は20℃と一定で昼温が30℃、25℃処理では、25℃温度処理が、30℃よりも着色が進む。</p> <p>(2) 昼温が25℃と一定で夜温20℃、15℃の温度処理では、いずれも果皮の着色は進むが、明らかな差は認められない。</p> <p>(3) 6月出荷型の果実では、着色期に昼の温度が高いため、果梗部に緑色が残る。</p> <p>(4) 着色を促進するためには夜温を下げるだけでなく、昼の温度も25℃以下に下げることがある。</p> <p>2) 技術・情報の適用効果</p> <p>着色期の気温は、昼温は25℃以下、夜温は15～20℃にすると着色が良くなる。</p> <p>3) 適用範囲</p> <p>ハウスミカン栽培地域</p> <p>4) 成果の利活用・普及指導上の留意点</p> <p>加温停止は、果実着色が1分程度を目安にする。</p>	

## 2. 具体的データ

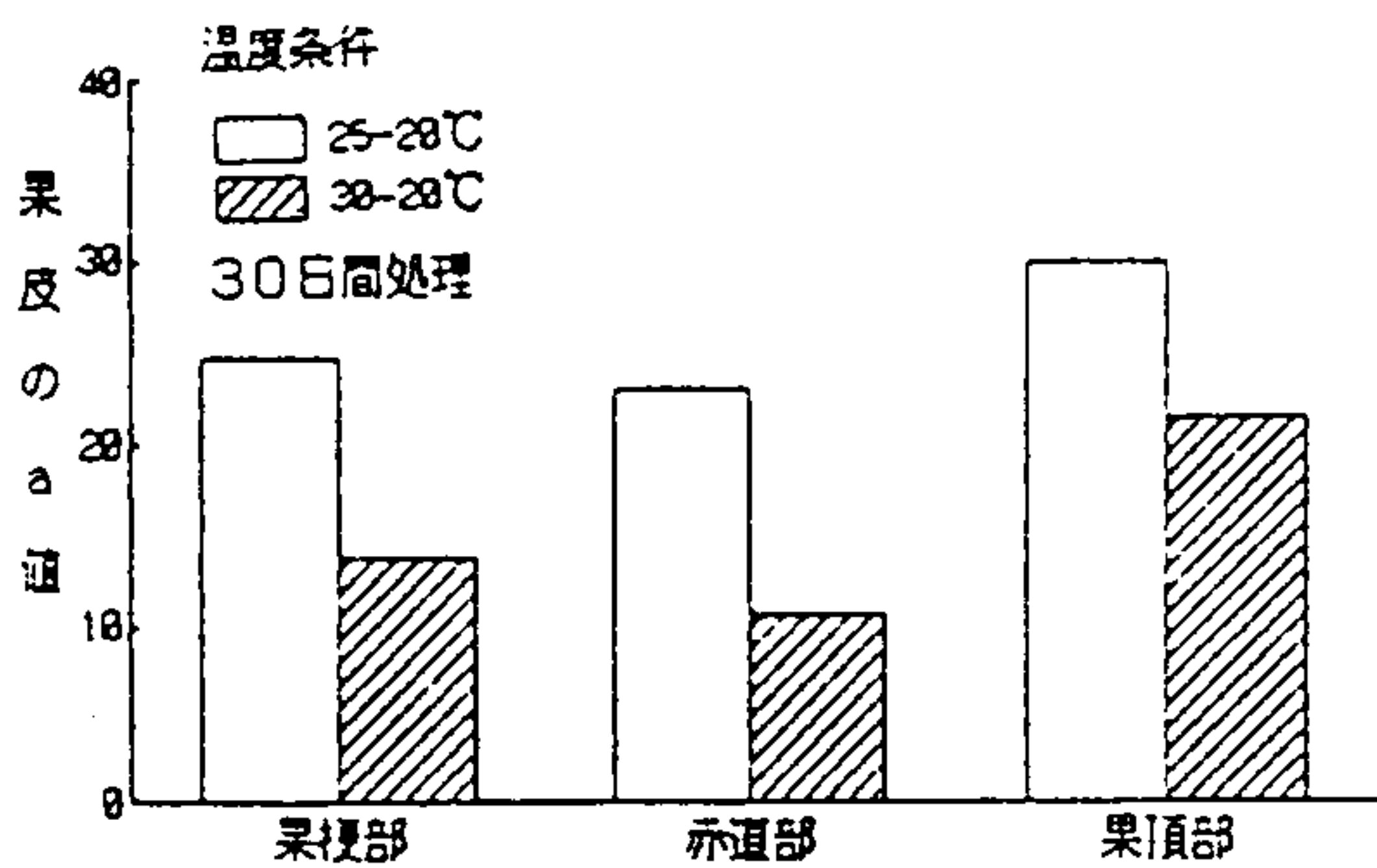


図1 着色期の昼温と果皮の着色

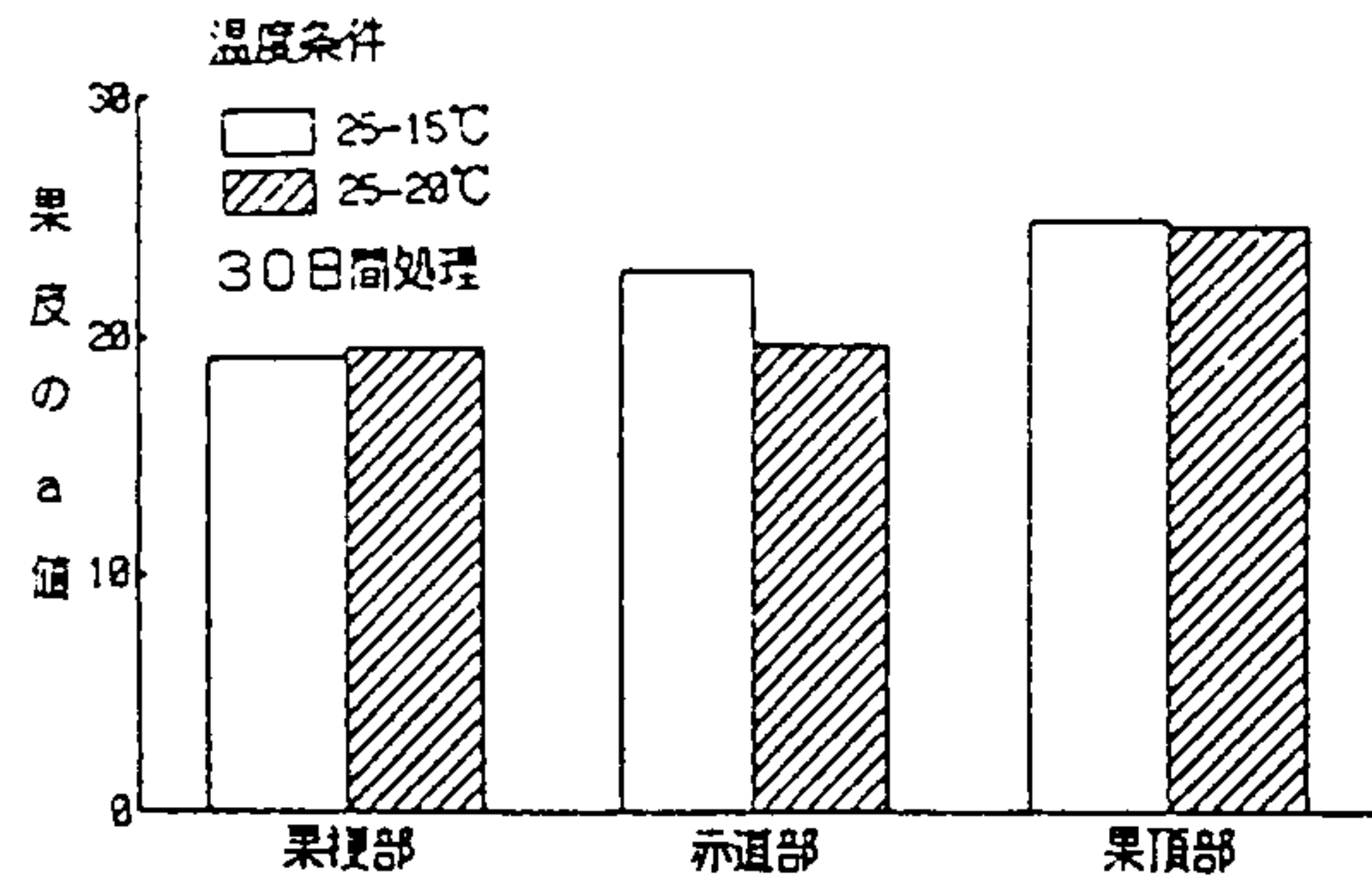


図2 着色期の夜温と果皮の着色

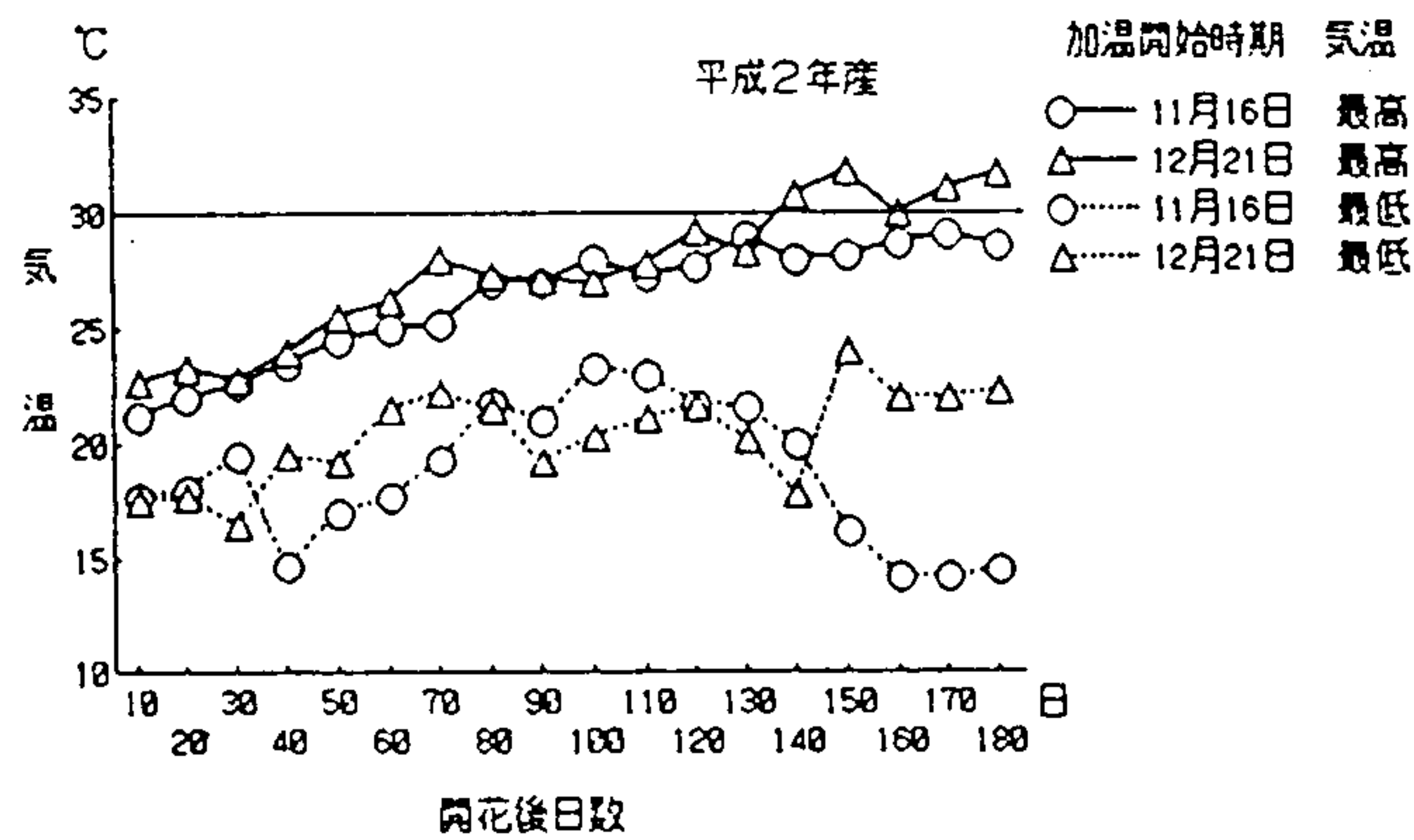


図3 加温時期と加温後の最高、最低気温の推移

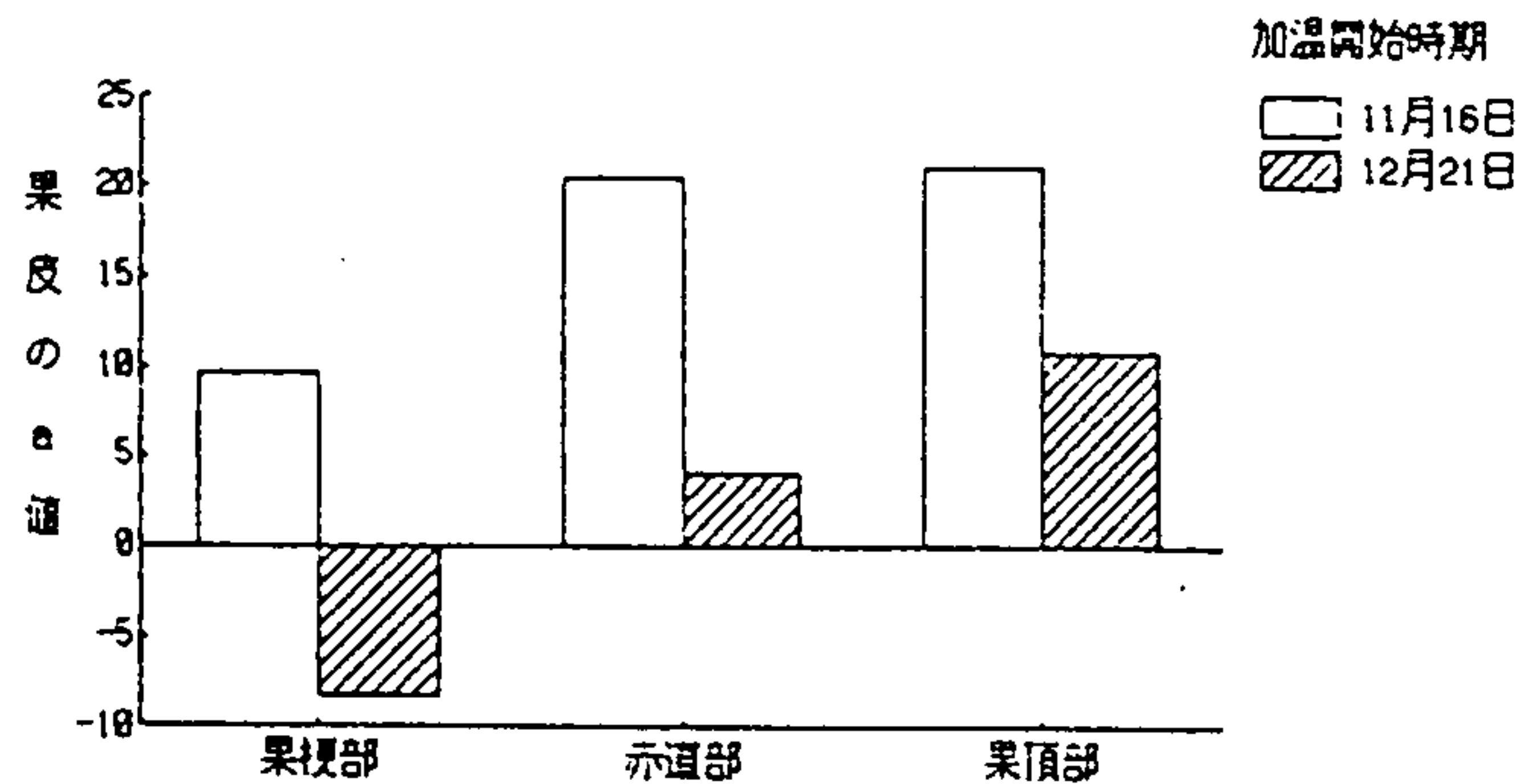


図4 加温開始時期と収穫時の果皮の着色

## 3. その他特記事項

担当部科名：常緑果樹科

研究課題名：カンキツ類の環境制御による高付加価値果実の生産と流通技術の開発

研究期間：平成1～5年

発表資料等：平成元、2年常緑果樹試験研究成績概要集

平成元、2、3年度長崎県果樹試験場業務報告